



# Executive Interview

エグゼクティブ  
インタビュー

## no.53

このコーナーは神奈川トヨタのお客様である経営者の方にお話を伺うコーナーです。

有限会社 匠寿堂 代表

## 星野 壽美 様

横浜市栄区で3店舗の薬局を営む有限会社 匠寿堂。代表を務める星野壽美氏に地域に根ざした薬局としての取り組みや思いについて伺いました。

### ——薬局を始められたのはいつからですか？

平成8年に会社を設立し、翌9年に桂町薬局を開業しました。当時は医薬分業が進みつつある頃で、信頼できる開業医の先生から薬局をやってみないかとお声をかけていただいたのがきっかけです。医院でお薬を管理する在庫品目数にも限りがありますし、薬局でも処方内容のダブルチェックができるということもあり、お役に立てるのであれば、と開業を決意しました。当初は母校の先輩とその方の知り合いの事務の方と3人ではじめました。

経営は本当に素人だったのですが、地域医療への貢献はもちろん、薬剤師の仕事で患者さんの健康へのお手伝いが少しでもできればという思いで、五里霧中の状態ながら懸命にやってきました。現在は総勢30名で助け合いながらやっています。うちの薬局は、従業員をはじめ周囲の人たちの愛で成り立っていると言っても過言ではなく、正直みんなの助けがなかったら成り立たないと思います。

薬局の業務は一見薬を渡すだけのように見えるかもしれませんが、意外と「こういう症状なんだけど、どうしたらいいと思う？」

というような地域の方からの身近な健康相談が結構あります。

初めのうちはどこにどんな医療機関、相談窓口があるかもわからない状況でしたが、長く続けているうちに近所のお医者様の得意分野などもわかるようになり、症状・状況に応じた医療機関を紹介するようになってきました。長いお付き合いになる患者さんでもできるようになって、やりがいも感じるようになりました。

### ■地域と連携し住民のQOLを支える

#### ——地域での活動もされているということですが、どのようなことをされていますか？

栄区は総じて元気なお年寄りが多いところなのですが、横浜市の中でも1・2を争うほど高齢化率が高い区です。私たちは、そういう方々の生活の質が少しでも良くなるように、行政や地域のケアプラザ等と連携をとって、少しずつ包括的に町全体を見ていけるように協力しています。これは私どもだけではなく、栄区の薬剤師会全体で分担を決め、地区ごとに連携を

取り合っています。

以前、認知症の患者さんが薬を受け取りに来た帰りに、バスの乗り場がわからなくなってしまい、乗り場までお送りしたことがありました。一人暮らしのため無事にお家に帰れたのか心配だったので、何度か電話をしましたが連絡がつかず、ケアプラザなどに連絡して運良く居場所を確認することができました。大事には至りませんが、本当に今何しに来たのかもわからなくなってしまうといった状態でした。その方は、今は施設に入所されていますが、当然お薬の管理にも不安があり施設に入られるまでの間は薬の服用状況など、薬局とケアマネージャーさんとで密な連携をとって対処する必要がありました。幸いにも、栄区は比較的福祉には力を入れている地域なので、ケアプラザ・薬剤師連携会議など交流を持つ場があり、また在宅診療に力を入れているお医者様もいるので、皆さんからお話を伺ったりお力添えをいただいたりして、このように対応することができました。連携をとって患者さん一人ひとりを見ていくという感じです。



# 医師や介護施設と連携して 地域の健全な生活をサポート

## ■震災後、停電時の危機を救った エスティマハイブリッド

——20年近く薬局をされてきた中で、  
思い出深い出来事などありますか？

難病のため、体が痛くて、お薬を取りに来ることができなかった患者さんですね。

介護サービスを利用して通院し、帰りに処方箋を置いていくのだけど、再び取りに来るのがものすごくつらい。寝ている間も痛くて痛くてたまらないという方がいらっやいました。処方元の病院は遠かったのですが、たまたま、うちの薬局を見つけて来てくれて、自宅に届けてほしいという依頼を受け、ご自宅に届けるようになりました。まだ介護保険の適応も定まっていない段階でしたが、少なくとも1か月に1回はお伺いして、飲み残しのお薬の確認や調整のような薬の管理などもやっていました。当時は時間もあったので、お話をいろいろ聞いたことが心に残っています。病状の悪化により、病院の近くに引越されましたが、今はどうしていらっやるかなど時々思い出します。

また、2011年の東日本大震災直後には、この地域はかなりシビアな計画停電がありました。当時も、エスティマハイブリッドを所有していて、大活躍してくれました。停電してしまうと、照明はもちろん、粉薬を分包する機械を動かすことができず、特に小児患者にお薬を渡すことができません。そこでエスティマを店に乗り付けて延長コードで繋ぎ、電源として分包機などを動かしたんです。エスティマハイブリッドは1,500Wの家庭用電源が取れるコンセントが2箇所についているんですね。周りは停電していてどこのお店も閉まっていたのですが、これで患者さんの対応がある程度可能となり、混乱することなく

乗り切ることができて本当に助かりました。これも忘れられない思い出です。

## ■目指すは町の医療コンシェルジュ

——かかりつけ薬局・薬剤師の推進など  
薬局の在り方にも大きな役割が位置づけ  
られているようですが？

かかりつけについては、私たちが普段やっていたようなことが制度化されたというのが正直な思いです。しかし、健康サポート薬局など、その拠点となる認定を受けるための条件をクリアするにはかなり難しくなっています。かかりつけの意義を認めてくれている点ではうれしいことなのですが、ハードルがどんどん上がってきているというのがちょっと大変ですね。

薬剤師は町の医療コンシェルジュになれるのではないかと考えています。薬局での相談は医療機関と比べると気楽で敷居が低いようで、特に私どものような地域に根ざした薬局というのは、近隣

の医療の状況などを把握しているのので、相談していただくと、例えば同じ内科でも、この症状ならば消化器専門のあの先生、この場合は循環器専門の…、というように適切なアドバイスができ、こういうところが地域で長く働いている強みだとも思っています。

うちの会社のモットーは“八百屋さんみたいな薬局を目指そう！”なんです。昔からある町の八百屋さんって、「この季節の大根は三浦がいいんだよ、煮て食べるのが一番！」というように、料理法まで教えてくれましたよね。家族構成も覚えていて、何人分でこのくらいの量とか。それと同じように、医薬品の説明だけではなく、それに付随する健康情報までお伝えできるような、「これはこうした方がいいよ」というようなことが言える存在でありたいと思っています。

今後は薬剤師が地域の支援に外に出ることを目指したいと思っています。高齢ドライバーの事故が問題視されていますが、車で来る高齢者は相当多くいらっやいます。

ご高齢で通院のために車が必要、かといって介護のタクシーの予約は大変ということで、やむなく運転されている方も多いのが現状です。薬剤師も介護のような形で訪問し支援するという仕事が必要だと思うので、しっかり対応できるような薬局にしていきたいと考えています。



## 有限会社 匠寿堂

さかえ薬局  
〒247-0005 横浜市栄区桂町274-15  
TEL:045-896-4566 FAX:045-897-3144

柏陽薬局  
横浜市栄区柏陽20-3 コーポ寿 TEL:045-893-9951  
桂町薬局  
横浜市栄区桂町325-1-101 TEL:045-896-2830

## <インタビューを終えて>

高齢化が進む中、地域医療の要として薬局が重要な役割を担っていることを知りました。星野氏の患者さん一人ひとりと真摯に向き合う姿勢と明るい対応で、薬の効能プラスアルファの元気や活力をもらった患者さんも多いのではないかと感じました。